

第3回 買物公園のあり方検討会議 会議録

日時	令和5年7月28日（金） 14時00分～16時00分
場所	旭川市シニア大学 講座室
出席者	<p>参加者 12名 久保 竜弥氏，佐藤 真紀恵氏，四戸 秀和氏，鈴木 伸治氏， 鈴木 美央氏（オンライン），高橋 遼太郎氏， 長尾 英次氏（オンライン），中田 崇太氏，蜂須賀 咲来氏， 林 亜優氏，三浦 詩乃氏，山田 直人氏</p> <p>オブザーバー 4名 国土交通省北海道開発局旭川開発建設部 治水課流域治水対策官 結城 憲明氏 道路計画課道路調査官 秦 地大氏 北海道上川総合振興局旭川建設管理部地域調整課企画調整係長 後藤 恵美氏 旭川市土木部次長 鎌田 昭範氏</p>
欠席者	有馬 準氏，草野 常幸氏
会議資料	資料1 第3回 買物公園のあり方検討会議
会議の公開・非公開	公開
傍聴の数	7名（報道2名）
会議内容	
1 開会	
2 議事	
(1) モビリティ体験会の報告	
事務局	（事務局より，会議資料（P1～P6）に基づき，説明を行った。）
座長	<p>7月1日に開催されたモビリティ体験会について，実際に試乗した方や買物公園を通行されていた方からのアンケート結果について報告があった。</p> <p>これらの内容については，本日後半の議論や，次回以降の会議の参考にしていくこととしたい。</p>
(2) 前回会議の振り返り	
事務局	（事務局より，会議資料（P7～P9）に基づき，説明を行った。）
座長	<p>買物公園のエリアプラットフォームについて，前回の意見や，それらを踏まえた事務局のイメージについて説明を受けた。</p> <p>これらの内容についての意見は，未来ビジョンについての意見と合わせて伺うこととしたい。</p>

<p>(3) 未来ビジョンについて ア. 他都市の事例紹介 イ. 未来ビジョンで示す将来像のイメージ</p>	
事務局	(事務局より、会議資料(P10～P16)に基づき、説明を行った。)
座長	<p>これまでの説明などを受けて、今後、策定していく未来ビジョンで示す将来像のイメージについて、事前に配付しているワークシートに基づき、意見をいただきたい。</p> <p>また、本日の午前中に、参加者の皆様の自主的な活動として、まち歩きをしたと伺っている。その感想も含めて御意見をいただきたい。</p>
参加者	<p>まち歩きでは、旭川駅南広場から7条緑道まで、約10人で話をしながら歩いた。その際、参加者の1人から、「買物公園をストリート文化やストリートスポーツという視点から捉えるとどうなるか」という話題が出たところであり、このような視点は新しい視点であると感じた。</p>
参加者	<p>普段、買物公園を単なる道として利用することが多いが、今日は、参加者の皆様と話をしながら、また、まちの景色を見ながら、ゆっくりと歩くことができた。</p> <p>まち歩きの中で、市の地域振興課の職員から、旭川駅南広場は同課で管理している広場であり、1平方メートル単位で使用することができる旨の説明を受け、この先、様々なことに活用できると感じた。</p> <p>そのような説明を聞くと、「このような利用の仕方もあるのか」ということも見えてきたので、今回、まち歩きをすることができて良かった。</p>
副座長	<p>実際に歩いてみて、チームで歩くことが非常に大事であることを改めて実感した。</p> <p>まち歩きの中では、自分たち自身でできるアクションについては、今後、プラットフォーム等で解決できる部分があると感じた一方で、買物公園沿いにある公開空地など、本来は路上よりは使いやすいはずであるものを使いこなせていない部分があるなど、自分たち以外の事業者の協力が必要なものもあると感じた。</p> <p>プラットフォームでできることなど、自分事として行うことと、それ以外の部分の働きかけが必要なことなど、この場に入っていない方々にはどのように協力していただくかという2つの方向性を感じたところである。</p>
参加者	<p>旭川は、スケートボードやダンス等のストリートスポーツなどが盛んであるなど、格好良いものが根強いというイメージを持っている。買物公園をさらに「イケている空間」とするために、ストリートスポーツができる場所をつくるなどして、これまで興味がなかった人の目にも付く</p>

	<p>ような場所にできれば良いと思う。</p> <p>実際に歩いてみて、買物公園は、自然と都会が共存できるつくりになっていると感じた。このようなつくりを生かし、例えば、買物公園にはハイブランドが入った商業施設、緑道にはアパレル関係の路面店を設置し、ファッション関係のお店を充実させるなど、「かっこいい」、「かわいい」、「おしゃれ」というような、若い人が発信する新しい文化がある場所にしていければ良いと思う。</p>
参加者	<p>ストリートスポーツに関する視点は面白いと思う。今、既にある文化をベースとして、それを育てながら、ストリートスポーツに紐づいてくるブランドが出店したくなる、企業誘致につなげていく戦略もあると良いと思う。</p> <p>都市の中心部には、多様な人が集まる仕掛けづくりが必要であり、今はない機能をどのように補填していくか、これまで来ていなかった人が来る仕掛けづくりをいくつかの視点で、できるところからやっていくということが必要である。</p> <p>例えば、スケートボードについては、道路では禁止されているからこそ、できる場所をつくるということも大事であると思う。このような自由な活動を許容する場所を中心部につくっていくことも必要であり、そのためには、道路のままでは難しいこともあることから、制度的に改良していくということも必要である。</p> <p>先ほどの話にもあった旭川駅南広場について、1平方メートルを1日30円で使用することができるのとことであり、例えば、4平方メートルほどのスペースを借りて、1日テントを張って過ごすことなども可能であるが、使用の申請は15日前までに行わなければならないとことであった。例えばピクニックシートを広げて飲食をするために15日前までに申請を行うことは、現実的ではなく、買物公園内に、思い立ったときに自由に使える空間をいくつかのポイントでつくっていくことも必要であり、それを求めている人も多いと思う。</p> <p>買物公園の理念を旭川市の都市のイメージにつなげてブランディングを行っていくことが重要である。そのためには、物語をつくっていく必要があるが、それを象徴するシンボルがぼやけているように感じるので、物語とそのシンボリックな存在をしっかりとつくっていくことに期待したいと考えている。</p> <p>これらのことを達成していくためには、課題も存在している。</p> <p>まずは、自由な活動に対する制約を解消していくことが必要である。例えば、市地域振興課で管理している広場と道路管理課が管理している</p>

	<p>道路では、広場の方が幅広く利用しやすいので、上手くそのような方向に手続を簡素化していく必要がある。先ほど、ピクニックシートを広げることについて例として挙げたが、手続をする必要がなく、自由に使える場をつくっていくことが必要である。</p> <p>次に、多様な人が集まる仕組みづくりについて、空間をもう少し多様化していくことも必要である。現状は、ほとんど同じような空間が駅前から8条まで続いているが、同じ買物公園内でも、滞在したいエリアは人によって違うと思うので、例えば、緑が多く、ピクニックシートを広げられるエリアとそうではないエリアというような強弱を付けていくことが必要である。また、空地や空き店舗をどのように使っていくか、そこに何を呼んでくるかという戦略が必要であり、今の買物公園にはない機能をそこに置くことで、これまで買物公園に来ていなかった人を呼び込むことができる。また、産業振興の拠点として、旭川市立大学のサテライトキャンパスや産業創造プラザのような機能の一部を持つてくることも面白いと思う。</p> <p>そして、都市のイメージをつくっていくときには、旭川では「川のまち」や「都市と自然」など、自然に関連したキーワードがよく出てくるが、それを具体的に、物語として買物公園を語るできるようになれば良いと思っている。そのためには、河川をつないでいくという意味で、北彩都ガーデンと常磐公園を結ぶ中間に買物公園があるものとして捉え、エリアを全体としてブランディングしていくことが必要であると考えている。</p>
副座長	<p>スケートボード等に関しては、メンテナンスの面や歩行者の方への対応という面で問題が出てくる。例えばインフラが傷ついてしまうということが出てくる場合などに、長い目で見てどのように上手くやっていくかなど、どうしても出てきてしまうネガティブなイメージにどのように対応していくかという課題がある。</p> <p>一方で、ストリートスポーツは、地名度が上がっている状況もあり、子どもたちが今後、親しんでいく余地があるなど、潜在的な部分はある。</p> <p>「道」としてだけで考えるのではなく、「全体のエリア」として考えて、その後、「道」としてどこまで許容するか、どのように活用していくかという自由な議論があった方が良い。ただし、その際には、自主的に管理することも求められていく。</p>
参加者	<p>買物公園の現状を考えたとき、「公園」としての利用はほぼゼロである。一方で、今や買物公園でなければ買えない物もほとんどなく、「買物」としての比重もそれほど高くはないと思う。</p>

	<p>将来を考えたときにも、「買物」としての比重は、今後も縮小していくと思う。今は日用品であっても、オンライン等で購入することが多い中、「買物」をどのようにキープしていくか、また、キープしていかなければならないのかということ考えたときには、例えば、ストリートスポーツに関するもののように、その場で体験するために、必ずその場で買わなければならないものが残っていくと思う。</p> <p>ストリートスポーツについては、買物公園内に限らず、例えば商業施設の跡地に、全天候型のストリートスポーツができる会場をつくり、その中に関連するショップが入れば、ストリートスポーツによる歩行者への阻害や歩行者の不満もなく、その場で完結していくことができると思う。</p> <p>今後は、オンラインなどで消費できるものと、ストリートスポーツなどのスポーツのほかキャンプや水泳など、自分の体を通してしか体験できないものとの二極化が更に進んでくると思われるので、自分の体を通して得られるものに特化した施設があれば、「公園」と「買物」が成立した空間をつくっていくことができると思う。そのようなことを考えながら、今後のまちづくりを進めていくことができれば良いと思う。</p> <p>そして、札幌にある地下歩行空間のようなものを旭川にもつくることはできないか。また、地下ではなくても、それぞれの建物の地上2階のスペースをつなげて歩行者専用の公園的なエリアをつくり、1階部分を自転車や、モビリティの専用の通路にすることにできれば、公園と道の機能が両立することができて面白いと思う。</p>
参加者	<p>東京オリンピックのスケートボードの競技において、最年少でメダルを獲得した女子選手は、苫小牧市で管理しているスケートボードパークで練習していたところを注目され、もっと極めたいとの思いから、札幌のボードスクールに通って練習した上で、結果を出したものである。</p> <p>旭川においても、これからも増える可能性がある空き店舗や空き地などにスケートボードパークをつくるのも良いと思う。土日には、緑道にも中高生達がスケートボードをしにくるが、スケートボードは、単独での事故のほか、歩行者にぶつかる事故や、スケートボードが飛び歩行者に当たる事故など、自分以外の人を巻き込む可能性もあり、買物公園での利用は危険であると思う。一方で、苫小牧市の例のように、若い人たちの今後の可能性も秘めたものであることから、ただ禁止するだけではなく、スケートボードができる場所をしっかりとつくった上で、買物公園での利用を禁止するという方法もあると思う。</p> <p>現在、北海道内には、世界大会を開催できる公認のスケートボード</p>

	<p>パークはまだないと聞いている。そのようなスケートボードパークを道内で最初につくることができれば、世界大会を開催して注目を浴びることもできる。また、道内の選手が本州に行かなくてもそこで練習することができ、人を集めることができると思う。さらに、スケートボードに関連したショップもできてくると思う。</p> <p>エリアプラットフォームにおいても、旭川市内のスケートボードのショップやスクールを運営している方にも入ってもらえることができれば、買物公園に今まで来ていなかった人が集まり、賑わいが生まれる可能性もある。</p>
参加者	<p>禁止事項ばかりを捉えるのではなく、できることを増やしていく方が、この先は明るいと思う。「これはできない」ではなく、「こうすればできる」ということを市や警察の方から提案していただけると、使う側にも考える余地が出てくる。また、申請や制約に慣れてしまうと、その枠の中で考えてしまい、面白いアイデアが出てこなくなるのがもったいなく、何か使いやすい方法はないかといつも考えている。</p> <p>買物公園は、その名前のとおり、「1 km強の大きなショッピングセンターの中に公園がある」、「1 km強の長い公園の中にたくさんの売店がある」という捉え方ができればとても楽しそうであり、そのような空間になることが理想であると思う。</p> <p>現状は、「公園」というより、歩行者天国である「道」という認識が、店主にも利用者にも潜在的にあると思うが、そこにもう少し解釈の道を持たせて、「道」という性質を残しながらも、もっと自由に、例えば、店主が植木を植えてみる、ベンチを出してみる、そこを通る人たちも、自由にベンチに座ったり、ピクニックシートを敷いて寝転がったりするという使い方をしても良いと思う。今後、どのような体制であればそのようなことが実現できるかということを経営プラットフォームの役割として持たせてもらうことができれば良い。</p> <p>このようなことを実現できれば、市民も店主も買物公園という公共空間を楽しく使いこなすことができる。自分の庭のように自由に使うことができれば愛着も沸き、滞在する時間も増えて、人と人の出会いが増えると経済も動いてくる。</p> <p>そのようになってくると、エリアの雰囲気に合わせて新しい出店者も増える。その中に、例えばデザインセンターや高校生が勉強することができるスペースなどの公共施設もあれば良い。</p> <p>エリアの雰囲気に合わせ、「路面店」と「買物公園」を一体として考えながら楽しく使いこなせる体制づくりができれば良いと考えている。</p>

参加者	<p>買物公園については、もっとエリアごとにメリハリがついていても良い。例えば、全てが揃うような商業施設は駅付近に、個性的なブランドや、芸術、スポーツ、音楽等の文化的な体験ができる施設は北側にあるというように、1つの買物公園の中に、機能として、エリアごとに全く色が違う面を持つことが良いと思う。</p>
参加者	<p>スケートボードパークについて、将来、スケートボードでオリンピックを目指したり、格好良さやスタイリッシュさを求める若い人や子どもたちが増えることは良いことであると思うが、つくったからといってすぐに買物公園に活気が出るというものでもないと思う。</p> <p>買物公園で店舗を営業している者として、買物公園という名前はそのままが良いと思うが、現実的に、昔に比べると空き店舗が多くなり、空き地になっている場所も多い。</p> <p>私は幼い頃から、緑道の雰囲気が好きであり、今でもその雰囲気が残っていることにうれしく思う。駅前から買物公園、緑道を通って常磐公園まで歩き、常磐公園を少し散策してみるという全体的なイメージを市民をはじめ観光客の方々にアピールするようなマップをつくと面白いと思う。</p> <p>今の買物公園には、若い人たちにとって、クールである、なんとなく歩いていても格好良く思うなどのイメージからはほど遠いので、地元の若いカメラマンに依頼して、買物公園の格好良いストリートスナップを撮影してもらい、インスタグラムなどのSNSなどで積極的に発信してもらうことなどができれば良いと思う。</p> <p>旭川では、旭川デザインウィークが毎年開催されており、期間中には、世界的に有名な方も含め、多くの方が旭川市を訪れている。このような土壌を生かしたデザインやアートにかかわり、格好良い建物や、おしゃれな建物などは、まちのインパクトやモニュメントになるものであり、年齢層を問わず、まちづくりに効果的なものであると思う。</p> <p>具体的な案として、買物公園には、最近、駐車場や空き地が増えているが、それらを地元の若手の建築家やデザイナーなどに依頼して、コワーキングスペースにして、旭川の家具を入れ、おしゃれなものを飾る。建築家やデザイナーには、低予算で依頼する代わりに、それらをつくってくれた人たちをその空間でアピールしていく。また、家具を提供してくれた会社やその歴史、その他旭川の飲食店なども紹介していくことなどができれば良い。</p> <p>商売を行うためにテナントとして借りる場合、短期間で撤退してしまうケースも多いことから、長期的には、コワーキングスペースというア</p>

	<p>アイデアは面白く、学生をはじめとする若い方の勉強や読書のほか、高齢の方々が新聞を読むなど、幅広い年齢層に使ってもらえると思う。</p>
参加者	<p>旭川デザインウィークは毎年開催されているが、中心となる会場が買物公園周辺に集まっており、その時期にはたくさんの方が来る。旭川が既に持っているこのイベントを利用しない手はないと思っている。</p> <p>家具の分野でいうと、IFDAは、既に10回、開催されている。10回開催することにより注目も集まり、旭川家具のレベルも上がり、デザイナーの夢を実現するための技術力も上がるなどの効果があった。そこでは、旭川の家具のデザイン性、技術力、知名度を上げるために、普通につくることができないようなデザインの家具を世界中から集めて、コンペティションを行い、入選した作品は実際に試作を担当したメーカーから、商品として発売される。</p> <p>その建築バージョンのようなものを実現できると良いと考えており、例えば、このエリアにどんなものを建てたらいいかという案を世界中から募り、実際に入選したものを有識者の力を借りて実現する。デザイン都市であるプライドと周辺を活性化させようという意思を持ちつつ、何年か続けることができれば、写真映えするスポットもでき、それが増えるとエリアとして一体の写真を撮りたい人も増えるなど、ビジュアルの面も成長し、それに関わった人たちのレベルもますます成長していくと思う。</p> <p>買物公園周辺については、フットワークが軽くとも動くことができる、やってみたくことが叶う場所にしたい。規制などの制限が厳しいと動きがなくなってしまうので、ある程度の大きなルールはありつつも、その中で自由な活動ができるという場所にしていきたい。</p> <p>また、便利なものは駅前の大型の商業施設に任せることとして、どちらかといえば不便なものや凝ったものを扱う店などを点々と並べることができれば良い。</p>
参加者	<p>地下歩行空間というアイデアは良いと思う。買物公園にもかつて、店舗の間に雨除けが設置されていた時代もあるとのことであるが、そのようなものがあれば、歩きやすくて良いと思う。基本的に、雨が降ると外出しなくなると思うので、地下歩行空間のような全天候型な空間であれば、雨の日にも歩きやすくて良いと思う。</p> <p>コワーキングスペースについても、おしゃれな場所で勉強をすることができればうれしく思う。現状においても数は少なく、そのような場所は、学生が多く、大人が立ち寄りづらく、入りづらいという雰囲気であ</p>

	<p>ることが多いことから、大人でも勉強をするためなどに、気軽に寄ることができる場所があれば良いと思う。</p> <p>現在の取組において、買物公園で「まちなかにぎわいストリート」という事業者向けのチャレンジショップの開催や、高校生が踊る場を設置するなどのイベントを行っている。今後も、そのような取組を通じて地域の関わりができれば良いと思うが、賑わいが生まれているのかという面では疑問に感じているところでもある。このような取組が行われていることを知らない方も多いと思うので、効果的な発信の方法についても考えていきたいと思う。</p> <p>昔は、買物公園に、映画館やボウリング場などのエンターテインメント性のある施設が多くあった。このような施設が現在でも求められているかどうかはわからない部分があるが、人が集まり、賑わうという意味では、今でもあって良いものであると思う。</p>
座長	<p>今回の会議に欠席している参加者の方から、事前に提出された意見の一部についても共有したい。</p> <p>買物公園に期待することとして、「やりたい人や主体が自発的に負担なくイベント等企画実施していけるような体制がある」、「景観を損なわない」、「緑がある」、「行きたい店や魅力的なスポットがある」</p> <p>課題については、「北彩都ガーデン、駅前広場、買物公園、7条緑道、常磐公園がまだ有機的に結びついてない」、「行きたい店が乏しい。特にミドルエイジのメンズ服を買う店がない」、「規制が多すぎる。自転車の通行禁止、イベントの内容を問われ、許可が降りないことが多い」</p> <p>将来像については、短期的なものとして、「規制の緩和」、「ストリートライブが盛んに行われている」、「使いたい人がもっと使いやすく」</p> <p>中期的なものとして、「野外音楽堂を設置して、音楽のまち旭川の復権、ストリートライブを補完」</p> <p>長期的なものとして、「大きな並木道があり、駅前広場と緑道が直結した文化と商業の中心に」、「自転車などの環境に優しいモビリティで簡単にアクセスできるようにしたい」ことを挙げていただいたところである。</p>
参加者	<p>皆様の意見はとても前向きであり、「買物だけの場から変わっていく」、「自分の庭のように使いこなす」、「便利なものだけではなく、どちらかというとな不便なものも」などのいろいろなキーワードが出てきている。夢がありながら、かつ、現実を見ているところが素晴らしいと思っている。</p> <p>その中で、例えばエリアプラットフォームの機能など、皆様が集まって何ができるかということを考えるときに、「できることを増やしてい</p>

	<p>く」、「ハードルを下げる」、「やってみたいが叶う場」ということをどのようにつくっていくのかということに特化して考えていくことができれば良いと思った。それができる状態をつくっていくことは難しいことであり、時間がかかることではあると思うが、それを徹底して行うことに注力することが必要であり、それができれば上手く回っていくのではないかと思う。</p>
副座長	<p>例えば建築家の藤本壮介さんなど、旭川にゆかりがある世界的に活躍されている方や、旭川にゆかりがなくても旭川にとっても愛着を持っている方などが、買物公園の沿道のオーナーなどと上手くつながっていないということは、ヒューマンリソースを上手く使えていないということである。今後はエリアプラットフォームもできるので、その部分をどのようにつないでいくかということについて、知恵を出して考えていけたら良い。</p> <p>この会議では、若い方から高齢者の方まで、市民の方から賛同していただけるアイデアが多く出ている。それらのアイデアについては、例えばデジタルプラットフォームを活用して、普段はまちづくりになかなか参加できない方や、意見をどこで発言して良いかわからなかった方などもアイデアに投票したり、気軽に意見を言えたりすることもできたら良い。エリアプラットフォームで出たアイデアについても、デジタルも含めて活用しながら、デジタルで意見をもらうものや、会議体で決めていくものなど、内容によってレベル感を出して協議していくことができれば良い。</p> <p>空間的な話では、「全天候型」が、今回の会議で出たキーワードの1つである。既に、ガラス張りになっている全天候型のような空間はあるものの、まち歩きの際には、その空間が上手く使われていないと感じられた。まずは、既存のそれらの空間を使っていくことを考えることが必要である。仮にそれらを使うことができないのであれば、何が使用のハードルになっているのかを検討することが必要であり、その結果を踏まえて、今回の意見でも出たスケートボードパークのような施設の建設などにつなげていくというように、既存の空間を利用して実験することにより、新しい施設づくりの方針として展開していくことができる。</p> <p>買物公園は、日本で初めてできた歩行者専用道路であるが、道路である以上、接道条件を満たさなければならないことなど、広場としての活用が難しいところもあるが、広場空間と道路空間の管轄を見直すことなど、行政の中でもできることはある。例えば、盆踊りなどにも使うことができそうな広い空間が、緊急車両が通行する際に支障があることを理</p>

	<p>由に、一律に使えなくなっている現状であるが、緊急車両が、街区の中央にあるその空間を通行する必要があるのかなどを含め、想定されるリスクに応じた規制となっているのかについて、実際に災害を想定した防災イベントなどを行うことにより、使い方を試してみても良い。</p>
座長	<p>道の使い方を見直していくための社会実験にかかわるようなアイデアが出たが、長期的には、モビリティについても対応していかなければならない。初回の会議では、自転車をどうするか考えた方が良いという意見も出たところであるが、そのようなことも踏まえながら、買物公園にモビリティを入れるか入れないかという議論だけではなく、買物公園の周辺も含めたモビリティプランニングが必要であり、それと道の使い方にかかわる社会実験とを連動させていく必要がある。</p>
参加者	<p>「文化」と「産業」という2つの大きなキーワードがあると思う。</p> <p>「文化」については、ストリート文化のようなものや、文化芸術、市民文化会館などの文化施設、まちなか文化小屋などの市民の文化の発信拠点などを都市計画上の拠点であることをしっかりと打ち出し、サポートしていくことが重要である。</p> <p>「産業」については、開拓期以来、旭川の歴史において脈々とある木工を中心とした産業の中心となる拠点をまちなかにつくっていくということ、買物公園を物の交流や人と人とのコミュニケーションを生んでいく中心となる拠点としていくということである。これらについては、醸成された文化や歴史として既にあるものであり、そこを強化していくことが短期的な目標となると思う。</p> <p>長期的な目標としては、公園としての理念を、実際の空間に実現させていくということがあると良い。買物公園はどのような場所であるかという物語をつくり、それを「川のまち」や「自然」というキーワードと上手く結びつけていくことができれば良いと思う。さらに言えば、例えば、買物公園エリアの緑地、緑化面積の割合を半分にする、木造の建築物を増やし、買物公園エリアの木造の建築物の割合を半分にするなどの具体的な数値目標を掲げると面白いと思った。</p>
参加者	<p>まち歩きのとときに、ハイブランドが入るファッションビルのようなものであれば、物を買わなくても気兼ねなく歩き回ることができるし、そのような格好良い空間にただで良いと思うことができるという話も出ていた。一方で、個店や小売店などの小さな店では、一度入ると、何も買わずにウインドウショッピングだけでは申し訳ないという気持ちがどうしても出てきてしまう。</p> <p>このようなことを考えたときに、買物公園は、ファッションビルが大</p>

	<p>きく横に伸びたようなイメージで、エリア自体がファッションビルであり、公園であるというように、使う人の認識を変えていくことが大事であると思う。</p> <p>そうすることにより、より入りやすい場所になり、そこにいる格好良い大人と若い人が同じ空間にいることによって、格好良い大人が何を買っているのかなど、若い人が社会の縮図のようなものを見ることもでき、面白いと思う。</p>
座長	<p>道路の話が積極的に議論されている一方で、その周辺の建物の立ち並びをどうするかという議論はあまりされていない。</p> <p>例えば、海外には、店の造りをオープンにしていく、店の中を分かりやすく見えるようにしていくという取組を進めている都市もある。建物が建て替わり、その取組の成果が積み重なっていくことにより、歩くことが楽しいまちになってくる。</p> <p>横浜の元町商店街では、店のシャッターをパイプシャッターにして、閉店時もお店の中が見えるようにしている。また、夜には、帰宅される方が歩くときに不安にならないようにショーウィンドウの明かりをつけることをルールにしている。</p> <p>これらの例も参考にしながら、オープンな店づくりを進めていくということも大事である。</p>
参加者	<p>今は、季節が夏ということもあり、「緑を増やす」など夏に関連する議論が多くされているが、旭川は、四季がはっきりしており、冬が長いという特徴を持っている。買物公園についても、例えばイベントなども夏に多く組まれている状況であるが、長い冬の期間をどうしていくかについての議論も必要であると思う。</p> <p>観光の視点から見ても、旭岳などは外国人をはじめ、スキーやスノーボードをする人たちで冬の方が賑わっている印象であるので、冬をどのように盛り上げていくか、そのための課題など良い部分も悪い部分も含めて旭川らしさについて、冬の視点からも様々な検討を行っていく余地はあると思う。</p> <p>地下歩行空間についての意見も出たが、実際に、冬の猛吹雪の際には、買物公園を歩いている人が1人もいないこともある。確かに地下歩行空間があれば、冬に限らず、歩行者には快適になるものとは思いますが、莫大な予算が必要であることや、多くの人が地下を歩いてしまうことになれば、地上にある店舗に与える影響が大きくなることも懸念される場所である。</p>
座長	<p>本日の議論の中では、いくつか共通するポイントがあった。</p>

	<p>まずは、買物から体験にシフトしてきている、新しい時代の要請にどう対応していくのかということである。そして、居心地の良い空間にしていくことや楽しく使いこなすことを実現するためには、「できない空間」から「何でもできる空間」にしていくことが必要であるということが、皆様の共通意見であった。</p> <p>次に、ストリートスポーツや、デザイン、アートなど、まちなかから文化を発信していくということについての意見もいただいた。</p> <p>そして、買物公園の物語をどのようにつくっていくのか、また、買物公園はどのような場所なのかということをしっかり情報として伝えていかなければならないとの意見もいただいた。これらについては、今後、プラットフォームが担う役割にもつながってくるものである。</p> <p>また、様々なイベントが行われているが、それが日常となっていけない、課題の解決につながっていないという御指摘もいただいたことから、今後、社会実験を実施する際には、その目標として何があるのかということもしっかりと議論していかなければならない。例えば、通りのデザインを変える社会実験ならば、その先に何が見えるのか、例えば、デザイン都市の常設の拠点が見えてくるのかなど、ストーリーをつくりながら、実際に変化を掘り起こしていくような社会実験を行っていくことが必要である。</p> <p>そして、「道」としての使い方を見直していくためには、戦略が必要であるということについても重要なポイントである。まち歩きを通じて、買物公園には、使いやすい場所と使いにくい場所があり、実際に使われているところや使われていないところがあるということを感じたということや、買物公園の中でも、エリアごとに、全てが同じというわけではないことから、エリアごとの戦略が必要であるという御意見もあった。</p>
(5) 今後のスケジュール	
事務局	<p>事務局から今後のスケジュールについて説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回会議は、9月8日（金）の18時30分からを予定 ・場所は、旭川市大雪クリスタルホールを予定
3 閉会	